

平成21年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その1)

計画体系コード	1-1-2		事業名	美味しいまちげんきなまち食育推進事業
担当	保健福祉局保健所健康企画課 622-5151 加藤(由)			
全体計画				
事業内容	育児において、「食」に関する悩みを持つ親が多くいることから、母親・子どもへの「食」応援団事業を行うとともに、食育を地域運動として広げていくために、食育サポーターの登録、食育情報の集約化、情報提供などを行う。		<年度別の事業内容>	
	1 母親・子どもへの「食」応援団事業 親子料理教室、マタニティクッキング教室	2 札幌市食生活指針推進事業 野菜摂取強化事業	[19年度] 1 母親・子どもへの「食」応援団事業 ・親子料理教室、マタニティクッキング教室 2 札幌市食生活指針推進事業 ・野菜摂取強化事業 [20年度] 1 母親・子どもへの「食」応援事業 ・食育サミット・健康料理フェスティバル開催、子ども新聞への情報提供 2 食に関する市民活動応援事業 ・食育サポーター登録制度、食育ホームページ開設 [21年度] 食に関する市民活動応援事業 ・食育サポーター事業の充実 [22年度] 食に関する市民活動応援事業	
事業内容	平成19年度事業内容(決算)		平成20年度事業内容(決算)	
	1 母親・子どもへの「食」応援団事業 640千円 ・美味しい朝食体験事業 委託費 (200千円) 食生活改善推進員協議会へ食育事業委託 各区区民センター等の会場で親子料理教室の開催 参加者:301人 ・マタニティクッキング教室 (440千円) 保健センター企画・会場は保健センター 開催回数62回、参加者753人 2 札幌市食生活指針推進事業 300千円 ・野菜摂取強化事業 ポスター350枚 (150千円) ・事業広告によるポスター作成 1,700枚 (0円) ・各区保健福祉部事業 (150千円) ・野菜販売店レシピ配布 20,000枚 (0円)		1 母親・子どもへの「食」応援団事業 (1) 食育サミット・健康づくりフェスティバル 300人 ・会場費 200千円、はがき代 22千円 (2) 子ども新聞への情報提供 事業予算 0円 2 食に関する市民活動応援事業 (1) 食育サポーター登録制度 0千円 (2) 食育情報の集約化 500千円 ・食育ホームページの開設	
事業内容	平成21年度事業内容(予算)		平成22年度事業内容(予算)	
	1 母親・子どもへの「食」応援団事業 (1) 「早寝・早起き・朝ごはん」推進運動 186千円 (2) 子ども新聞への情報提供 事業予算 0円 (3) マタニティクッキング教室 事業予算 100千円 (4) 親子料理教室の開催 事業予算 200千円 2 食に関する市民活動応援事業 (1) 食育サポーター登録制度 0千円 (2) 食育情報の集約化 100千円			
事業場				
事業所				
規模				
案件数				
等				

平成21年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その2)

計画体系コード	1-1-2		事業名	美味しいまちげんきなまち 食育推進事業			
達成目標の状況							
項 目		18年度末 (現 状)	19年度末 (実 績)	20年度末 (実 績)	21年度末 (予 定)	22年度末 (予 定)	22年度末 (目 標)
食育サポーター登録者数(累計)		-	0人	193人	300人	600人	600人
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
<p>市民との連携、市民参加 ・親子料理教室は、地域で活動している食のボランティア団体と連携し開催している。その地区の親子が参加している教室で、地域のボランティア団体の活動を知る機会にもなっている。</p> <p>企業等との連携・協働 [資金協力] 野菜摂取強化事業のポスターは、教育委員会配布以外の1,700枚分は、広告事業で作成した。 [人材協力] 調理師の優れた技術提供により、「食育サミット・健康料理フェスティバル」の内容の充実が図られた。 [情報協力] 市内小学生の家庭に配布される民間事業者発行の子ども新聞(毎月10万部発行)に食育情報を提供し、食育の啓発を進めた。 [その他の協力](該当なし)</p> <p>市民・企業等が参加しやすい環境づくり ・食育のホームページを開設し、市民・企業・団体等の食育推進活動を投稿しやすい仕組みを作った。これにより、市内の食育活動がみえやすいものになった。また、食育活動を行う人のモチベーションを保つことが可能となり、さらなる活動の輪を広げることが期待される。</p>							
評価(成果)				課題			
<p>1 子どもの食育に視点を置いた「札幌市食育推進計画」を20年9月に策定した。</p> <p>2 食育応援団体等として、食育ボランティアおよび食育サポーター企業を募り、市民活用がなされている。</p>				<p>幼児期の食生活により味覚などの食嗜好が形成されやすいことから、子どもの時から食育を行うことが重要となっている。</p> <p>現在、乳幼児健診などで年間55,000人も保護者が保健センターに来所している。この機会を利用して食支援を行うことは、効率的であると思われるが、限られた時間と人員の中で効果的な食支援を行っていくことが課題である。</p>			
今後の事業の予定・方向							
<p>食育推進計画の推進 = 「北海道型食生活」を推進の柱に置き関係団体・企業等と連携し推進する予定である。北海道型食生活は、米を中心にした栄養バランスの良いもので脂質の摂り過ぎを防ぐ食事である。子どもの時から脂質の少ない食生活を進め、生活習慣病の発症を予防する食生活を推進する。</p>							

平成21年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その3) (単位:千円)

計画体系コード		1-1-2		事業名	美味しいまちげんきなまち食育推進事業		
事業費の推移							
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計	
計画	事業費	-	-	-	-	-	
	財源内訳						
	国・道支出金						
	市の債						
予算	事業費	1,600	622	586	-	2,808	
	財源内訳						
	国・道支出金	800	311	293		1,404	
	市の債	0	0	0		0	
実績	事業費	940	722	-	-	1,662	
	財源内訳						
	国・道支出金	470	361			831	
	市の債	0	0			0	
事業費の進捗率		(H19実績事業費 + H20実績事業費 + H21予算事業費) / (計画事業費)				-	
計画との差異(予算・実績・事業内容・規模・時期等)							
(全体)							
[19年度] 広告事業により事業費を節約した。							
[20年度]							
[21年度]							